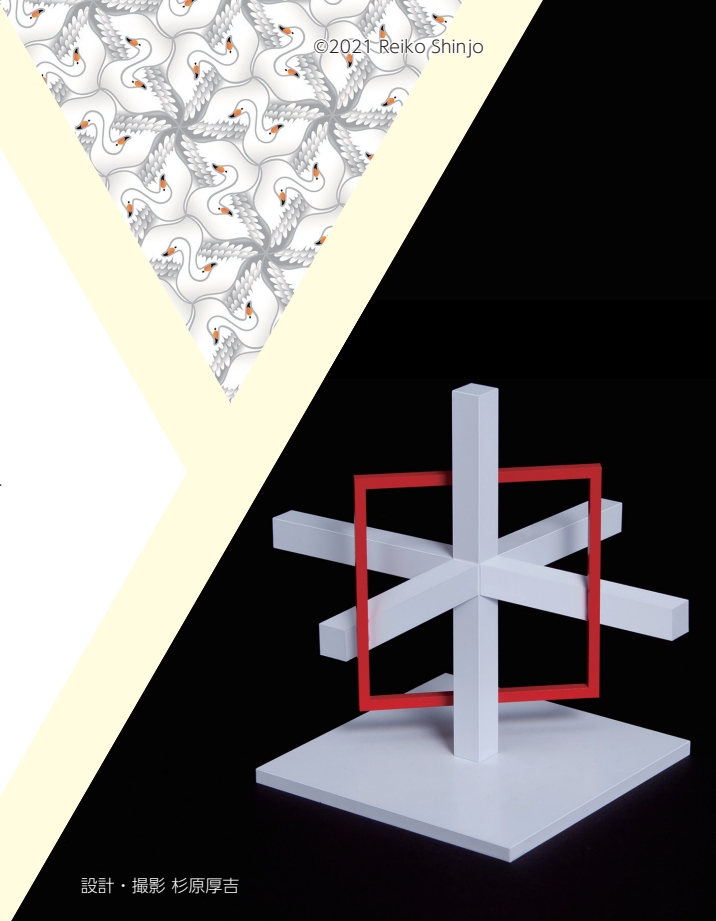
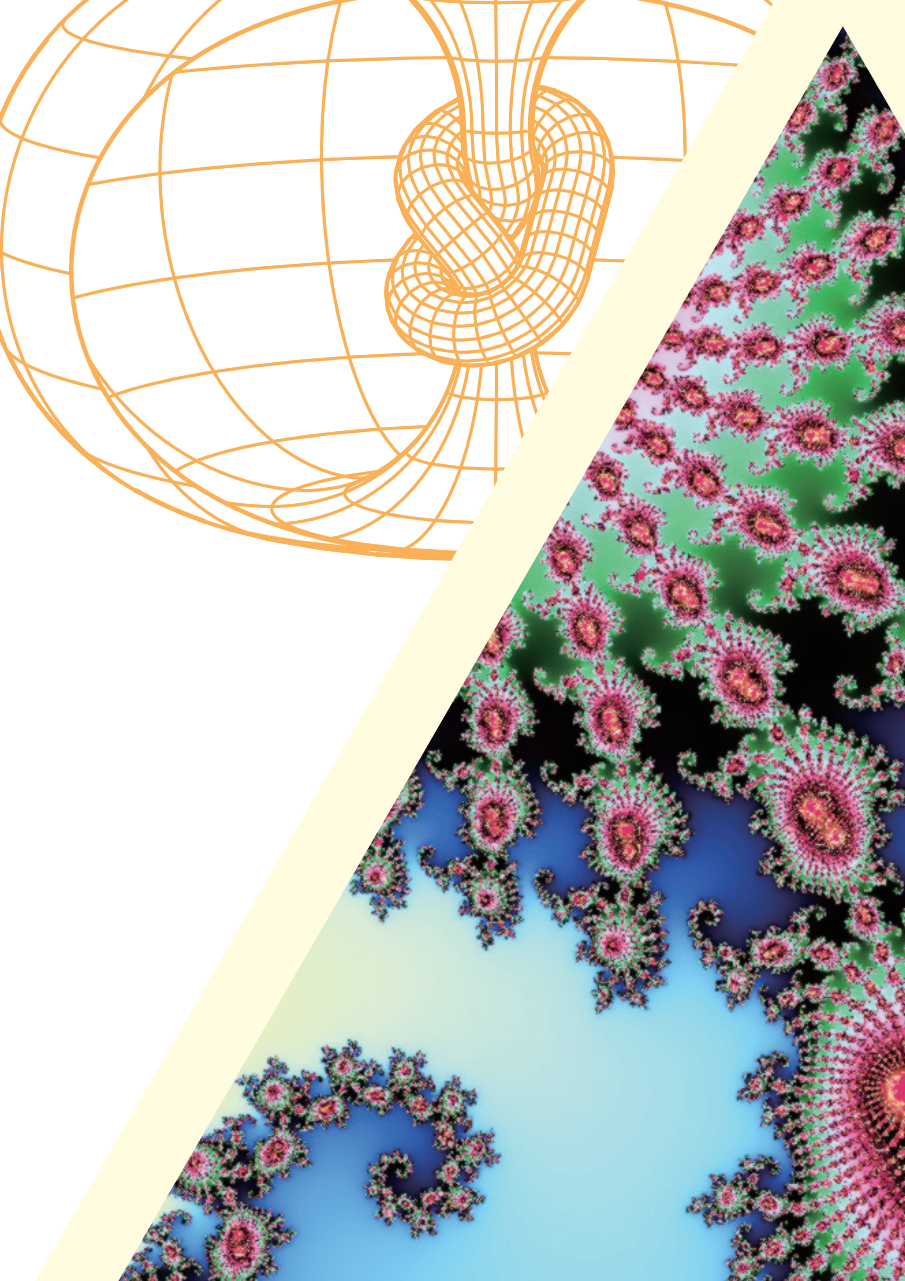
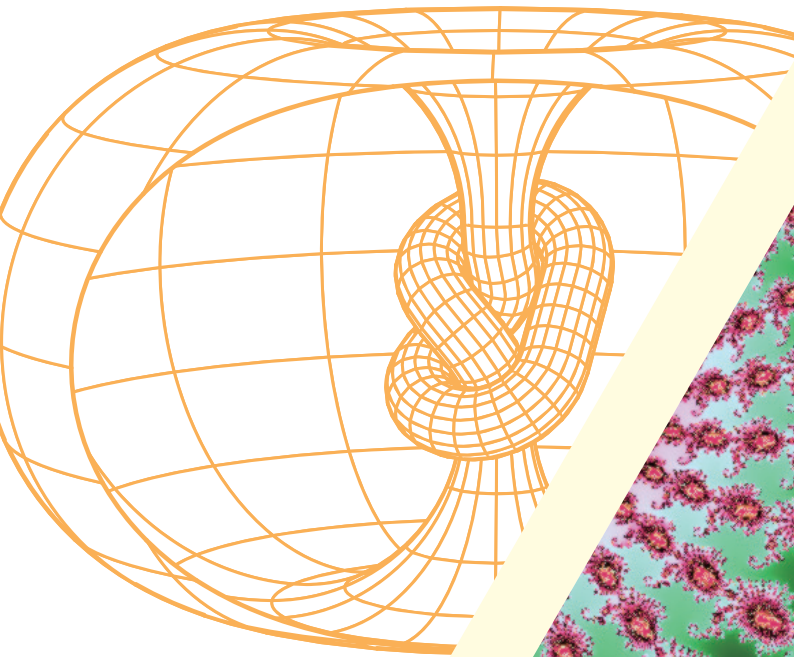


 一般社団法人 日本数学会

The Mathematical Society of Japan



設計・撮影 杉原厚吉





ご挨拶

# 日本数学会 創立150周年に向かって

一般社団法人日本数学会の歩みは、明治10年（1877年）に設立された東京数学会社に始まります。その後、東京数学物理学会、日本数学物理学会と名称を改めながら、幾多の時代の変遷を乗り越え、わが国における数学の発展と普及に力を尽くしてまいりました。昭和21年（1946年）には日本物理学会と組織を分離し、日本数学会として新たな歩みを始め、昭和27年（1952年）には社団法人、平成24年（2012年）には一般社団法人へと移行し、今日に至っております。こうして日本数学会は、来る令和9年（2027年）、東京数学会社の創立から数えて150周年という大きな節目を迎えることになりました。この長きにわたる歩みは、ひとえに数学会の会員の皆さまの、これまでのためまぬご尽力とご支援の賜物にほかなりません。ここに心より深く感謝申し上げます。

この150年の間に、数学の世界は大きな進展を遂げるとともに、それを取り巻く環境も大きく様変わりしました。かつては純粋な知の探究を主たる目的としていた数学は、今日では情報通信、金融、医療、さらには人工知能技術といった最先端分野において、理論的な基盤として重要な役割を果たしています。学部初年次で学ぶ線型代数や微分積分学から、代数学、幾何学、解析学、さらには応用数学の先端的領域に至るまで、幅広い数学の知見が技術革新を支えており、数学に対する社会的要請も一層高まりつつあることを実感しております。

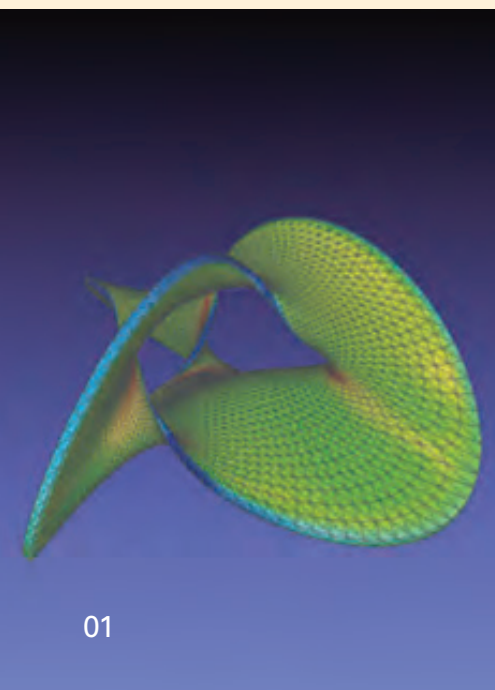
一方で、学会運営を取り巻く状況もまた、大きく変化しております。事業支出の増加にともない、2026年度からは、実に30年ぶりとなる会費改定を実施する運びとなりました。会員の皆さまにはご負担をお願いすることとなり、誠に心苦しい限りではございますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、日本数学会では現在、事業内容の見直しを進めるとともに、持続可能な運営体制の構築に向けた取り組みを始めております。あわせて、一般財団法人数理科学振興会との共同事業にも着手し、日本数学会の事業も変化しつつあります。

これからも日本数学会は、これまで育んできた伝統を大切にしつつ、時代の変化に応じて変革を進め、数学の振興と社会への貢献に努めてまいります。

未来を見据え、次なる世代へと確かな歩みを引き継いでいくため、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



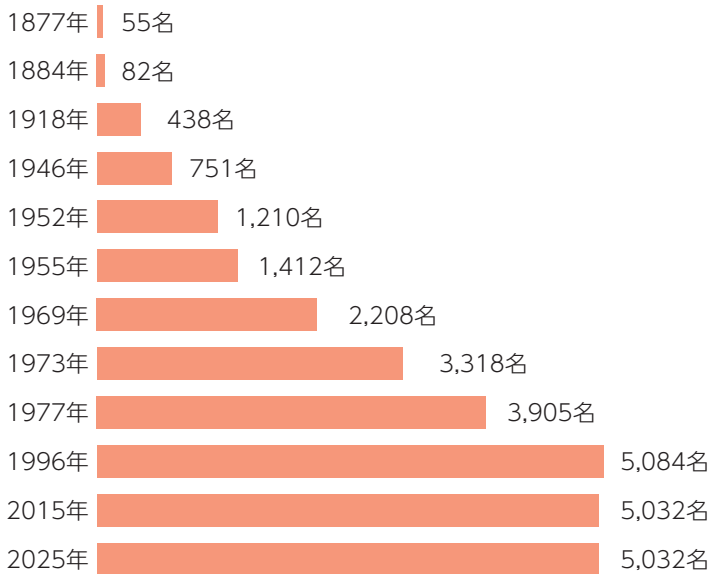
日本数学会 理事長 石毛和弘



# 日本数学会のあゆみ

江戸時代に日本で独自に発展した和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し理解したことが知られています。その後も欧風の数学を取り入れながら日本の数学研究は発展してきました。国際数学会議においてこれまでに3人のフィールズ賞受賞者（小平邦彦、広中平祐、森重文）、ガウス賞受賞者（伊藤清）、チャーン賞受賞者（柏原正樹）、また、数学におけるノーベル賞に相当するアーベル賞受賞者（柏原正樹）を輩出するなど、今日では日本の数学に対する国際的評価は確立しています。

## 会員数の推移



## 日本数学会定款より

### ■目的

この法人は数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与することを目的とする。

### ■事業

1. 学術的会合の開催
2. 学会誌及び図書の刊行
3. 数学に関する図書及び雑誌の収集整備
4. 数学研究の奨励及び数学に関する業績の顕彰
5. 数学研究者の育成
6. 数学研究の交流及び数学の研究成果の普及
7. 社会における数学基盤の整備
8. 数学の発展及び普及のための調査・研究
9. 国内外の関連学会、諸団体との連絡及び協力
10. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1877	東京数学会社設立
1884	東京数学物理学学会に改組
1907	関孝和先生二百周年祭記念事業
1918	日本数学物理学学会に会名変更
1946	日本数学会として分離設立される
1952	社団法人となる
1954	小平邦彦氏フィールズ賞受賞
1955	代数的整数論国際会議
1969	函数解析学国際会議
1970	広中平祐氏フィールズ賞受賞
1973	多様体論国際会議
1990	国際数学会議（ICM）京都 森重文氏フィールズ賞受賞
1998	伊藤清氏京都賞受賞
2006	伊藤清氏第1回ガウス賞受賞 赤池弘次氏京都賞受賞
2008	関孝和三百年祭記念事業
2010	高木貞治50年祭記念事業
2011	藤澤利喜太郎生誕150年祭記念事業
2015	森重文氏国際数学連合（IMU）総裁に就任 小平邦彦誕生百年祭記念事業 伊藤清生誕百年祭記念事業
2017	加藤敏夫生誕百年祭記念事業
2018	柏原正樹氏チャーン賞、京都賞受賞
2023	中島啓氏国際数学連合（IMU）総裁に就任
2025	柏原正樹氏アーベル賞受賞

# 数学の広がり

## アイデアによって世界が変わる

ひとつの図形を見たとき、長さや形に注目したり、対称性に注目したり、色に注目したり、繋がり方に注目したりと、色々と違った視点から捉えることができます。

いままで慣れ親しんできたものでも、別の捉え方をすると、全く新しい使い方や、思いもよらない関係性を見出せたりもします。

数学には、世界を変える多様な見方を提供する、アイデアの工具箱、という側面もあります。



## 古くて新しい数学

数学の起源は4000年以上前に遡ると言われています。土地の測量や正確な暦の作成など、社会生活を送るうえで必要となることから、古代の各文明で誕生し、交易を通して少しずつ広がっていきました。

高度に発達した現代の科学・技術文明のなかで生活していくうえでも、数学的な考え方が必要とされることに変わりはありません。

グローバル化やダイバーシティ、AIの普及などが急速に進む社会において、数学はどのように深化していくのでしょうか？



そして新しい。

## 多様な数学の世界

数学の世界は多様です。数学それ自体のために研究される「純粋数学」もあれば、現実世界の様々な問題を解決するために使われる「応用数学」もあります。物理学や情報科学など、他分野との境界領域にも豊かな数学が広がっています。

図形や整数のような古典的で素朴なものから、多様体やトポスや圏のような抽象的なものまで、数学の研究対象は多岐にわたります。偶然を支配する法則を研究する確率論もあります。さらには、数学そのものの基礎を研究する数学基礎論もあります。



## 日常にある数学の風景

セールスマンがたくさんのお得意先を最短距離で回る道筋を考えたり、大きさや形が違うものを効率的にリュックに詰める問題を考えたりするなど、数学は日常の様々な場面で用いられています。池に向かって投げた小石が描く放物線や、コップの内側に当たる光の包絡線や、ひまわりの種のようにお互いに距離が近づかないような並び方、素数を選んで地上に生まれるセミの行動など、数学は身近な自然現象の中にも潜んでいます。



河野裕昭 撮影



4次元可視化VRシステム“Polyvision”

## 科学技術を支える数学

ビルや橋などの建築物の安全性を支えているのが数学なら、位置情報を使って航空機や船舶の安全な航行を保証してくれるのも数学です。

その他、宇宙開発、海底探査、地中探査、さらには安全かつ効率の良い通信を実現するためにも、数学は欠かせません。

## 数学の世界は開かれている

数学の世界は誰にでも開かれています。年齢や職業に関係なく、誰でも、誰に遠慮することもなく、数学の研究ができ、成果を発表できます。他人の研究成果も（普通は特許などかけられていないので）自由に利用できます。研究集会やセミナーなども、興味ある人には誰にでも公開されることが多いです。

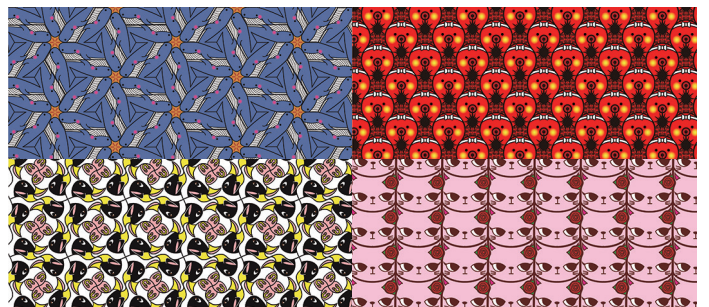


## 数学×アート

アートの背後には往々にして数学があります。

西洋音楽と数学の親近性はしばしば指摘されるところです。ピタゴラスは音律を研究しましたし、オイラーも音楽理論を研究しました。クセナキスの「確率音楽」のように数学を利用した作曲技法もあります。

絵画においても、エッシャーの作品のように双曲面のタイル張りを見事に利用したのがあります。建築の世界でも、特異点論や離散微分幾何学が利用されます。また「折り紙」も数学の研究対象となっていますが、これもさまざまな構造物に応用されています。数学に裏付けられたフラクタルや錯視などもアートに利用されています。

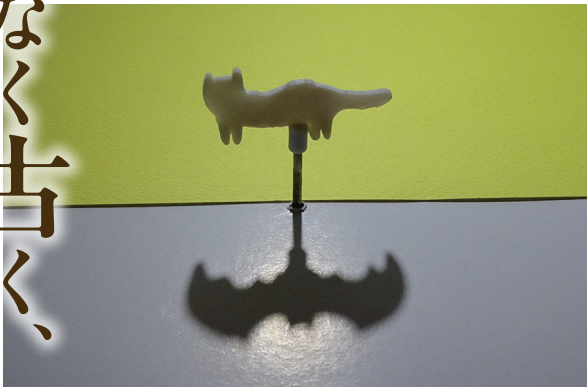


©2021 Reiko Shinjo

数学は限りなく古く、



河野裕昭 撮影



設計・撮影 杉原厚吉



制作・撮影 三谷純

# 日本数学会の活動

## 年会・秋季総合分科会

日本数学会は、春に年会、秋に秋季総合分科会という大会を開催します。

約1500名の数学者が集い、研究の発表や討議、情報交換を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞・秋季賞・建部賢弘賞（特別賞・奨励賞）、日本数学会関孝和賞・出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・各分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。お子様を同伴して年会・秋季総合分科会に参加する会員のために、大会開催中に保育室を学会会場内に設置しております。

## 年間スケジュール

### 3月 年会

\* 日本数学会賞春季賞、  
日本数学会出版賞、  
JMSJ論文賞 授賞式

\* 総合講演、企画特別講演

\* 日本応用数理学会  
招待講演

\* 市民講演会

\* 女性だれでも懇談会

\* 教育シンポジウム

### 9月 秋季総合分科会

\* 日本数学会賞秋季賞・  
建部賢弘賞 授賞式

\* 総合講演、企画特別講演

\* 大韓数学会／台湾数学会  
招待講演

\* 市民講演会

\* 女性だれでも懇談会

\* 教育シンポジウム



秋季総合分科会 総合講演 (金沢大)



年会 総合講演 (東工大)



年会 市民講演会 (早稲田大)

## 市民講演会

大会の会場校の近くで、高校生から大人まで、一般の市民の方に数学の楽しさを実感していただくための講演会「市民講演会」を開催しています。



秋季総合分科会 市民講演会 (東北大)

## 女性だれでも懇談会

大会期間中、女性研究者の意見交換・情報交換を目的とした「女性だれでも懇談会」を開催しています。所属や研究分野、年代が異なるたくさんの女性研究者同士が知り合うきっかけとなっていて、大学院生も参加し、先輩研究者との交流を深めています。

## 教育シンポジウム

日本数学会は、日本の数学教育とも深く関係しています。大会期間中、数学と数学教育の役割について意見を交換する「教育シンポジウム」が開催されます。



## 一般財団法人数理科学振興会との共同事業

2024年度から一般財団法人数理科学振興会と共同で、将来の数理科学を担う世代育成の一環として、優れた若手数理学者の顕彰および在外研究奨励を図る事業を開始しました。

### ■日本数学会賞建部賢弘特別賞

これまでの同賞を共同事業として充実させ、35歳以下の優秀な業績を挙げた会員を顕彰します。

### ■在外研究奨励フェロー

博士の学位を有し、困難な状況のもと意欲的に研究を行う若手研究者で、海外の研究機関に所属する研究者と共同研究または現地で自ら研究を行う会員をフェローとして採択し、経済的支援を行います。

## 日本数学会季期研究所 (MSJ-SI)

日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を2006年まで毎年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引継ぎ、日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) を開催しています。特にアジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、若手研究者や周辺分野の研究者向けのサーベイを充実させ、積極的な交流を推進しています。



## 高木レクチャー

高木貞治 (1875-1960) の名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。この企画は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーをもとにした研究総説は、当日に第一草稿を綴じた高木ブックレットが無料配布され、その後、査読を経て Japanese Journal of Mathematics に掲載されます。



河野裕昭 撮影



## 顕彰事業

数学に関する優れた業績をあげた当学会の研究者、あるいは優れた業績で数学研究を始めた若い人達の学術的な貢献に対する顕彰以外にも、数学の活性化に貢献した人や団体に対して与えられる顕彰もあります。顕彰も数学会の活動として重要な部分を占めています。

**小平邦彦賞** 生涯にわたる数学に関する優れた業績をあげた日本数学会会員に対して授与されます。

**春季賞** 日本数学会賞春季賞は彌永賞を前身とし、40歳未満の優れた研究者に対して授与されます。副賞も授与され、年会時に授賞式と受賞講演が行われます。

**秋季賞** 優れた研究を行った研究者または研究グループに年齢の制限無く授与されます。副賞も授与され、秋季総合分科会の開催時に授賞式と受賞講演が行われます。

**建部賢弘賞** 若くして優秀な業績をあげる等、数学研究の活性化に寄与している日本数学会会員に授与されます。特別賞と奨励賞があります。

**関孝和賞** 数学の発展に寄与し、学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人、団体に対して授与されます。

**出版賞** 著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。

**JMSJ 論文賞** 授賞年前年の Journal of the Mathematical Society of Japan に掲載された論文のうち、特に優れたものの著者に贈られます。

**分科会などによる賞** **日本数学会代数学賞、日本数学会解析学賞、日本数学会幾何学賞、日本数学会応用数学賞** 広い意味で、それぞれ代数学・解析学・幾何学・応用数学への発展に貢献した研究者に授与される賞です。応用数学に関しては34歳以下の若手研究者を対象とする日本数学会応用数学研究奨励賞もあります。



小平邦彦

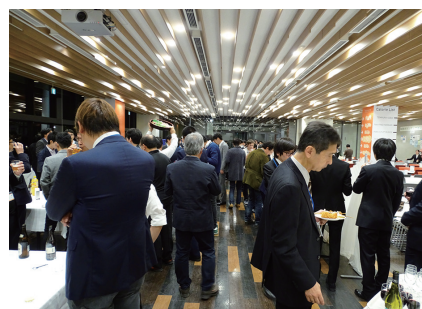


関孝和 (日本学士院 所蔵)

# 日本数学会と社会

## 数学・数理科学専攻若手研究者のための 異分野・異業種研究交流会

「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」は2014年から年に一度開催されています。現在では、日本数学会・日本応用数理学会・統計関連学会連合の3学協会が協働で主催しております。国内の数理科学系研究機関40程度の協力、企業・研究所40程度の参加に加え、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会の後援により、数理科学系の大学院生を中心とした若手研究者と産業界の研究交流を実施しています。基調講演、若手研究者によるポスターセッション、企業紹介、企業ブース訪問の個別交流等があります。優秀なポスター発表は「ベストポスター発表」として、情報交換会（懇親会）において表彰されます。



## 国際交流事業

### ■AIMSとの交流事業

アフリカ数理科学研究所（AIMS）はアフリカのSTEM教育の発展を促進するために活動している研究所です。AIMSと国際交流協定をむすび、年に一回AIMSにおける修士課程への講師を派遣する支援をおこなっています。



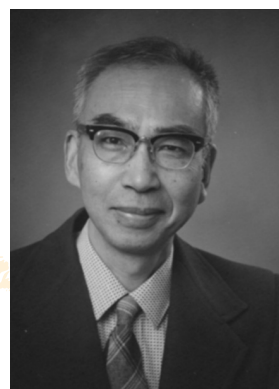
**AIMS** | African Institute for  
Mathematical Sciences

### ■加藤敏夫フェロー

東南アジア在住の若手研究者が日本の大学・研究所へ研究滞在をすることを通して、次世代の東南アジアを担う逸材を育成するとともに、日本と東南アジアの交流を促進する事を目的として、東南アジア数学会（SEAMS）の協力のもとで実施されている事業です。加藤敏夫フェローの滞在費などを含む研究奨学金は故加藤敏夫氏の遺贈により創設された一般社団法人日本数学会加藤敏夫基金が充てられます。

### ■海外の学協会との交流事業

日本数学会は、海外各国の数学コミュニティ（数学会）と交流協定を締結し、研究者および大学院生の交流プログラム、合同研究集会の開催、刊行物の交換や割引価格の特典、会費の割引などの相互交流を行っています。とりわけ、近隣の大韓数学会および台湾数学会とは、隔年で相互の学会に代表団および招待講演者を派遣するなど、活発な交流を行っています。



加藤敏夫

## 女子中高生夏の学校

「女子中高生夏の学校」は、女子中高生に科学技術に触れる機会や多様な理工系キャリアパスに関する情報を提供し、キャリアパス形成の支援を行うことを目的とする合宿型のイベントです。日本数学会からは毎年、実験・実習やポスター展示に出展していて、全国から集まった女子中高生へ数学の魅力を伝えています。



## 数学を学ぶ意義

### 「数学と社会の接点」

数学科の博士課程に在籍しながら金融産業で働いているAさんにお話を伺いました。

Q：どのような職場ですか？

A：クオンツ業務をする部署にいます。数学、物理、あるいは情報系出身者からなる職場で、全員が修士または博士の学位保持者です。大学の非常勤を務めている人もいます。

職場には世界中から人が集まり、世界共通の言語「数学」を使って仕事をしています。職場では大学院レベルの数学が必要です。たとえば、資産過程モデルやその計算のロジックを説明、作成をするので、上司も含め、職場ではこれらが理解できることが前提です。業界の今を理解する為にも数学的理解は必須です。たとえば、金融派生商品のリスク指標の計算ロジックの数学的正当性が課題となることがあります。新入社員の研修資料は確率論の修士レベルの教科書や社内作成の数学の教科書などですから、大学で数学を学んだことは大きなアドバンテージです。

Q：本日はどうもありがとうございました。

本当に数学の能力が要求される職場であることがよくわかりました。



### 「知ることは楽しい」

石井志保子 東京大学名誉教授／東京工業大学名誉教授



石井志保子

なぜ空は青いのだろう？ なぜ地球は丸いのだろう？

なぜ砂漠でバッタの大群が突然発生するのだろう？…

世界は不思議であふれている。私たちが近づくことができるのはそのほんのわずかだ。無限にある「不思議」の根底にあるのは「数学の不思議」だ。一見なんのつながりもないように見えるものが実は深いところで結びついている。それを知るのは素晴らしく楽しい。

この純粋な喜びを追求できるのが数学者という仕事だ。

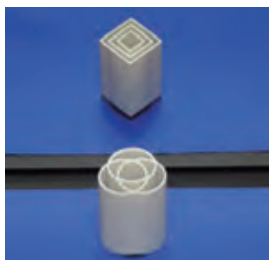
人の世は理不尽であり、美しくないものも目にするようになる。しかしだからこそ心の中に数学の世界を持っている人は幸いである。本当に美しいものを見ることができ、美しいものが存在するというのを信じることができる。それは生きる力になる。

# 入会案内

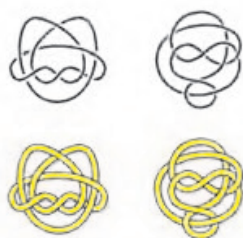
## 分科会

日本数学会では専門ごとに分かれた分科会という単位で活動しており、会員は必ず1つ以上の分科会に属しています。

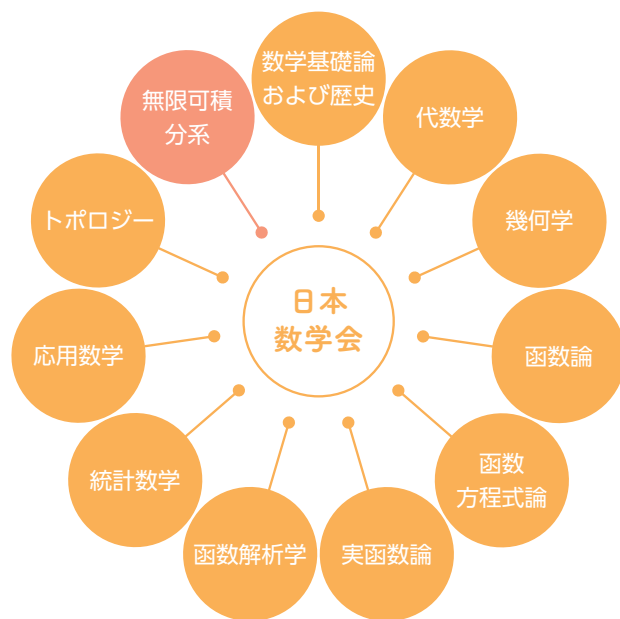
日本数学会には右の図にある10の分科会と1つの特別セッションがあります。多くの分科会はそれぞれ独自の研究交流を行っており、最新の専門的な学術交流の場となっています。年会、秋季総合分科会はすべての分科会が分野の枠を超えて集結する場となり、各分科会において、最新の研究成果を発表する特別講演のほか、会員による一般講演が行われます。



設計・撮影 杉原厚吉



©2021 Reiko Shinjo



## 会費について

会員には邦文誌『数学』（季刊）および『数学通信』（季刊）を配布しています。また、名誉会員を除く会員には希望により欧文誌『Journal of the Mathematical Society of Japan』の冊子体を配布しております。（賛助会員には『数学』、『数学通信』及び『Journal of the Mathematical Society of Japan』の冊子体を配布しております。）

外国数学会との交換会員制度があり、現在、アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、大韓数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、台湾数学会、クロアチア数学会及びヨーロッパ数学会と交換協定を結んでいます。会費等詳細につきましては各国数学会へお問い合わせください。

## 入会のお誘い

日本数学会には、数学の研究者だけでなく、数学に興味を持っている様々な年代、性別、国籍の方が会員として参加しています。年間を通して分野をこえたイベントが開催されています。

違う分科会が同会場で行われるなど、日常では接点のない方と交流ができ、貴重な情報交換の場ともなっています。

さらに、年間4回発行される会報は、内容も充実しており新しい情報をアップデートすることができます。

数学の魅力を一人でも多くの方と共有し身近に感じてもらうよう、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

正会員会費	……………	年額 18,000円(～2025年度)
	……………	年額 26,000円(2026年度～)
学生割引適用	……………	年額 9,000円
		(在学証明書送付者)
高齢会費適用	……………	年額 12,000円
		(在会10年以上で年齢70歳以上、要申込)
賛助会員会費	……………	一口年額 30,000円

上記のほか、在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対して会費を免除する名誉会員制度、在会25年以上で年齢65歳以上の会員に対する終身会員制度があります。また、2026年度から、若年層で経済的に厳しい状況にある会員、初等中等教育教員である会員を対象とした会費減免制度が実施されます。

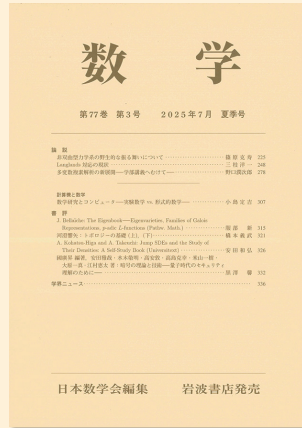
入会・手続き等詳しくは  
HPをご覧ください。  
<https://www.mathsoc.jp>



# 刊行物

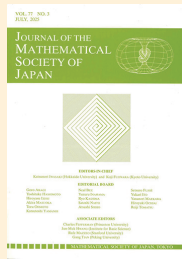
## 数学

『数学』は、日本数学会設立の翌年、1947年4月創刊の邦文誌で、現在は年4回発行され、岩波書店から発売されています。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載し、会員には無償配布されています。



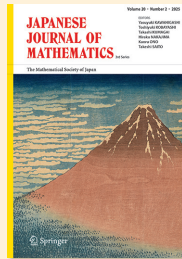
## Journal of the Mathematical Society of Japan

日本数学会欧文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) は、1948年に創刊された純粋数学の総合誌で、質の高い国際学術誌として数学コミュニティに貢献しています。



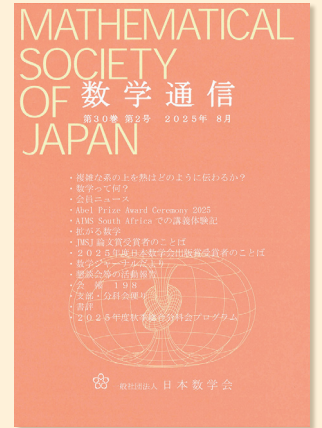
## Japanese Journal of Mathematics

1924年創刊の Japanese Journal of Mathematics (JJM; 日本数学誌) は、継続して刊行されている日本の数学欧文誌の中で最古のもので、日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを『創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌』として位置づけ、2006年4月に刊行を開始しました。



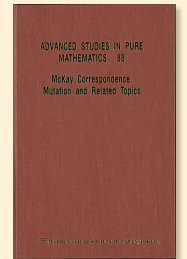
## 数学通信

『数学通信』は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評などがあります。



## Advanced Studies in Pure Mathematics

Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM) は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会などの重要な研究集会の報告論文集として刊行されています。



## MSJ Memoirs・数学メモアール

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、まとまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。



## 日本数学会の魅力はなんですか？

専門分野の異なる研究者とは、普段の研究集会ではなかなか一緒になる機会がないが、数学会の年会や分科会には多くの研究者が一堂に集まるので、旧交をあたためることができる。また、共通の知人を介して、分野を超えた新しい交流も生まれる。(数論幾何・教員・40代)

複数の分野の境界領域で研究をしているので、様々な分科会で講演する機会が得られる数学会の年会や分科会は貴重です。申し込めば、どの分科会でも講演できるのは大変ありがたいです。(確率論・教員・30代)

私の分野は残念ながら女性がとても少ないですが、数学会の年会や分科会では「女性だれでも懇談会」などの場で、女性の先輩の話を聞けたり、同世代の女性の友人ができました。(トポロジー・教員・30代)

会員向けに定期的に発行されている雑誌「数学」では、各分野の専門家の方が、非専門家向けに最先端の理論を紹介してくださり、とても読み応えがあります。日本語でこのような記事が読めるのは、とても良いです。(代数幾何・教員・60代)



The Mathematical  
Society of Japan

<https://www.mathsoc.jp>

## 一般社団法人 日本数学会

事務局 所在地

〒110-0016 東京都台東区台東 1-34-8

JR秋葉原駅から、徒歩約10分

日比谷線秋葉原駅から、徒歩約 8 分

日比谷線仲御徒町駅から、徒歩約10分

銀座線末広町駅から、徒歩約 8 分

大江戸線新御徒町駅から、徒歩約 8 分

